

授業のヒント

書 写

— 第 3 回 —

書写の学び再考

安田女子大学

谷口 邦彦

忘れかけていた大切なもの

先日、学生がお世話になっている教育実習先の中学校へ出向き、書写の授業を参観する機会があった。一年生の授業だったが、小学校の書写の内容をよく理解していて感心させられた。その地域はもともと書写が盛んなところもあるが、クラスは、疑問や気づきなど考えたことを誰でも発言できる雰囲気が出てきた。

実習生は次々と出てくる質問や意見に戸惑いつつも、生徒の発言に助けられ、結果としては質の高い授業を展開することができた。つまり、説明を聞き、お手本そっくりに清書を書いて提出するという授業とならなかつたのは不幸中の幸い？ だった。そのようなク

ラスで実習できた学生も幸せであるが、私も忘れかけていた大切なものを思い出させてもらったのである。

書写の授業では課題手本が絶対であると思われがちであるが、やはり課題文字の書き方に含まれているポイントを学習していくことが大切であること。課題文字から学んだポイントが、他の文字にも生かされなければ学習は意味を成さないこと。そのためにも考えるという活動が必要であり、他の文字にも応用できる共通点があることを学習することこそ、書写の学びではないかと。

二つの授業パターン

ここに書写授業のモデルとして二つを示してみたい。

☆毛筆教材「和音」(中二)の場合……※

授業パターン1

- T 「二文字の字形に注意して書きましよう」
- S 「はい」
- T 「最後に清書を提出してもらいます」

授業パターン2

- T 「和と音はそれぞれどのように組み合わせさせて書いてありますか」
- S 「和は左右の組み合わせ。音は上下の組み合わせで書かれています」
- T 「禾と口、立と日は単独の形と比べてどのように書かれていますか」
- S 「禾は右側が切り取られています」「口は小さくなっています」「立、日は高さを低くしています」 (見つける)
- T 「他の文字ではどうなっているか確かめてみましょう」 (考える)
- (株・縮・語・忠・星・暑)
- S 「株では木の右側が切り取られ……忠では互いに高さを低くして……」
- T 「字形を整えるとき、何かきまりはありますか」
- S 「二部を切り取ったり、縮めたり、小さくしたりして、譲り合って文字は

書かれています」 (まとめる)

T 「では書きましょう。最後に清書を提出してもらいます」

1では、もちろん清書まで黙々と書くことではないであろうが、課題文字が絶対の位置づけで授業が展開される。それに対して2では、課題文字はあくまでも一例。他の文字にも共通するポイントを象徴的に示したものにすぎないという位置づけで授業が展開される。これら二つの授業パターンは、次のようにまとめられるだろう。

A 課題手本 ↓ 「よく見て書く」 ↓ 清書

B 課題手本 ↓ 「見つける」

「考える」
「まとめる」
↓ 清書

「見つける」「考える」「まとめる」という活動とは、一つ一つ異なる文字は、あるきまりに則って書かれているのだということに気づくことである。

- ① 見つける (書き方に着目する) 具体
- ② 考える (なぜそう書くのか) ←
- ③ まとめる (きまりを見つける) 抽象

具体的な違いは、考えるという活動を通して抽象化されていく。抽象化への流れは教師によってサポートされるが、学習者の中で抽象化されたきまりは、他の文字にも応用できる力として定着していくことだろう。当然のことながら、授業の展開も、硬筆を用いた応用練習へと流れていくに違いない。

最終的に書き上げられた二枚の清書。その結果が同じであっても「そっくりに書いた」だけのものと、「見つける」「考える」「まとめる」の後に書き上げられたものは質的に異なると思われる。

授業の評価

このように進む学習活動の評価は、結果として書き上げられた清書の優劣のみでは評価できないことがわかってもらえるだろう。

「見つける」場面での発言やプリント記入。「考える」場面での発言や意見交換、プリント記入。「まとめる」場面での発言やプリント記入等々……。さらには、硬筆による応用

教材における定着度からの評価。学習過程での評価や、応用場面での評価のウエイトが高くなってくる。「考える」活動のない授業は学習者にとってあり得ない。もしそれがなかったなら、授業は退屈極まりないものになってしまうだろう。書写の授業にあっても学習活動の流れを大切にしていきたい。

(注) ここでは分かり易さを優先し「手本」「清書」などの語を使用した。



※平成18年度版『現代の書写』(三省堂, pp.26-27)

たにぐち くにひこ 安田女子大学准教授。広島大学附属中・高等学校教諭を経て、〇三年度から安田女子大学勤務。おもに、書写書道の学習内容、方法の改善に関する提案を行っている。